

9 団地の魅力や和を強くする

藤の木団地



団地ののり面を2万株のシバザクラが彩り、「ふじのきだんち」の文字が浮かびあがる。この素晴らしい景観は団地のシンボルにもなっており、平成26年には「第24回全国花のまちづくりコンクール」で努力賞を受賞した。子どもから大人まで苗植え等の作業に参加し、花づくりを通して世代を超えた交流が始まっている。

- 内 容 団地ののり面へのシバザクラの植栽
 - ・ 整地
 - ・ 草取り、花植え 等
- 場 所 藤の木団地東側
- 開始時期 平成24年4月
- 実施主体 藤の木学区まちづくり推進協議会



取組のステップ



団地ののり面を花畑にしたい

雑草の生える団地東側ののり面を夢のある花畑にできないだろうか…。地域の会合で出た意見をきっかけに、シバザクラの植栽運動が始まった。

団地全体の活動にするため、会合等でシバザクラを植える目的を丁寧に説明した。その結果、4つの町内会の役員とまちづくり代議員が活動に関わることになった。



「ふじのき」の花文字がシンボルに

縦20m、横200mにわたって、「ふじのきだんち」の文字を白と赤の花で植え分ける。春になると、約2万株のシバザクラが彩り、団地のシンボルとなっている。団地の外から見に来る人もいる。

花づくりでコミュニケーションが広がる

草取り、整地、苗植えなど、子どもから大人まで約60人がボランティアとして参加する。普段は顔を合わせる機会の少ない住民が一緒に作業をして言葉を交わすことで、コミュニケーションが広がっている。



工夫していること等

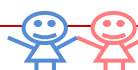
・ 広島市の助成金を活用

資材の購入など、広島市のひと・まち広島未来づくりファンドH㎡（ふむふむ）の助成金を活用した。

■ 課題・今後の展開 ■

- ・ 活動に参加する人を増やすこと、資金の確保
- ・ 活動報告など広報活動の充実

みんなの声



〈住民〉

- ・ 春になってのり面にシバザクラが満開になるのが毎年待ち遠しい。

〈主催者〉

- ・ 雑草の生い茂るのり面を夢と希望のある花畑にできた。藤の木学区における諸活動の大きな財産になると思う。